

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 9
No.385

イナテック版 私の履歴書 No. 5

大学受験と不思議な縁

高校生活も3年生になると、いよいよ受験勉強が本格的に始まりました。塾にも通い、西尾の街中にあるユーキ塾という、厳しい先生のもとで指導を受けました。

その塾には、当時、一緒に通っていた知人がいました。数年後、その方がイナテックで英会話を教えてくれていたアメリカ人の先生とご夫婦だと分かり、驚きました。勉強が苦手な者同士、類は友を呼ぶということだったのかもしれません。さらに不思議なことに、その

方のご長男が、現在西尾市議会議員としてご活躍されています。縁というのは不思議なものですね。

さて、大学受験ですが、私は近畿大学、中京大学、東洋大学、駒澤大学、高崎経済大学など、西日本から東日本まで、計6校を受験することにしました。どこかには引つかかって何とかなるだろうと、あまり深く考えていなかったように思います。

当時の日本の大学受験は、西から東へと日程が組まれていて、私の場合は近畿大学から受験が始まりました。なんとか合格したくて、近畿大学の中でも、限りなく文系に近い理工学部経営工学科を受験しました。

実は、受験校は東京か大阪で下宿生活がしてみたいという理由で選んでいました。いずれ稲垣鉄工所を継ぎ、一生を愛知で過ごすことになるなら、せめて大学時代だけでも東京か大阪の空気を吸い、都会の生活を経験したかったのです。

近畿大学の受験では、今のようホテルではなく、さびれた旅館に泊まりました。周りには高校生にもかわらず、タバコを吸っている学生がたくさんいました。

なんとか風邪を引くこともなく、試験を終えることができましたが、解けた問題はごくわずかでした。当時、「試験直後に『不合格だ』と言う人は、解けなかった問題がはつきり分かっているからで、数問しか解けていないような人は『まあまあだった』と言うものだ」と言われていました。私は間違いなく後者で、内心諦めていました。

まさかの合格通知

ところが、中部地区の試験が始まる直前に、『まさかの合格通知』が届きました。

私は経験のために中京大学の受験もしましたが、すでに気持ちはうわの空でした。進路が早く決まると、こんなにも気が楽になるものかと神様に感謝しました。

質素な下宿生活

大学生活は、東大阪の八尾で下宿を始めました。家賃は月8千円くらいで、大家さんの家の二階に住んでいました。部屋は障子一枚で仕切られた四畳半でした。廊下にある水道以外は、冷蔵庫も洗濯機もテレビもなく、あるのはラジオだけという簡素な部屋でした。しかしこれが当たり前と思っていたので、特に不満はありませんでした。

「理工学部」は、文系と違って実技や研究に追われることになると言われていたので、アルバイトはせず、自慢に聞こえるかもしれませんが、出席だけは欠かさずしていました。

羽石ゼミでの学友との出会い

3年生になると、ゼミに入ることが必須で、私は羽石ゼミを希望しました。当時まだ助手だった羽石先生は、私達より6歳ほど年上で結婚されたばかりの、まるで先輩のような存在でした。

羽石ゼミの仲間と打ち解けて話が出来るとなると、入学試験の話になりました。そこで、私以外にも補欠入学者が何人もいたことを知りました。

大学生活は、これまでの人生で最も勉強や研究に打ち込んだ、充実した時間でした。羽石ゼミで過ごした日々は、忘れられない思い出です。

【羽石寛寿先生プロフィール】

1946年生まれ、摂南大学名誉教授・元経営学部長。専門は経営工学、経営管理、経営情報学、社会システム工学など。

1968年、大阪工業大学工学部工業経営学科を卒業。近畿大学理工学部経営工学科助手を経て、1975年から摂南大学で教鞭を執り、40年以上にわたり同大学の研究・育成に貢献。経営学部長、学生部長などを歴任。2016年、摂南大学を退官、名誉教授に。

(出典・ウィキペディア/AIによる要約)

菜根譚後集

一一六

藏巧於拙、用晦而明、寓清於濁、以屈爲伸。眞涉世之一壺、藏身之三窟也。

非凡な才能を内にかくして拙いようにふるまい、すぐれた知恵をくらしながらも明察することを失わない。清節を守りながらも俗流に身をまかせ、身をかめるのはやがて身を伸ばさるためである。このような態度が、眞に世間の海を渡る上での貴い浮き袋であり、わが身を安全に保つ隠し場所である。

2
K. Iwagaki